

みんなの町議会

未来のカタチ 地域と歩む新規就農者

先進地視察	2
一般質問	4
意見交換会	9

条例制定をめざし

6月定例会は6月12日から25日まで開会しました。工事請負契約の締結など22議案を慎重審議し原案のとおり可決しました。道の駅さんわ182ステーションなど、令和6年度の第3セクター事業報告があり、一般質問では9人の議員が町政の課題について質（ただ）しました。

①『よしとみ介護予防カード』福岡県吉富町

65歳以上を対象に、日常のさまざまな取り組みで「自助」や「共助」といった意識づけにつながることを目的として計画されている。



計測したデータをアプリで管理

高齢者が行う健康づくり・ボランティア活動・介護予防活動をポイントで評価し、高齢者には、紙のポイントカード、スマートフォン世代はアプリで取得したポイントは商品券や地域の公共機関の利用券に交換可能。参加申し込みをした方に紙の台紙を配布町や住民主体の活動団体が行う介護予防につな

がるイベントに参加するとポイントを取得できる。①すべての住民のための仕組みとなること。②これまでの地域住民の取り組みを活かすこと。③運用展開において創意工夫が生まれやすい環境を整えている。

②『健康立市宣言』大分県由布市

すべての市民が健康で明るく元気に暮らせる住みよいまちづくりをめざし、市民と行政、地域社会が一体となって積極的に健康施策をすすめるために「健康立市由布市」を宣言された。



挨拶をされる由布市議会 甲斐議長

健康長寿のまちづくり条例とは医療費の増加も懸念される中、町民が健康で生涯にわたり安心して暮らすことができる健康寿命を延伸するため全町民が共通認識を持ち、一丸となつて取り組むための条例です。

運動や食事・睡眠など目標達成度に応じたポイントをためて、商品券と交換することが出来る。

3カ月継続すれば行動変容が定着するとして、12週間書き込めるシートを利用している。

先進地視察(福岡県・大分県) 健康長寿のまちづくり

③『笑顔で集いフレイル予防』大分県九重町



毎日6人位で行われる期間集中リハビリ教室

フレイル予防の取り組みは民生委員や地域の方からの情報が重要で、協・包括・町保健師等が必要な対応をする。短期集中リハビリ教室と通所型介護予防事業を行うことで、要介護認定率が低下した。

九重町ではフレイル予防に取り組み各種教室として、こどもから高齢者まで集う「多世代地域食堂」、ちょっとした困りごとの解決を、同じ地域に住む仲間としてお互いの気持ちで行う「支えあい活動員」や、いつでも自立した生活が送れるように、筋力向上のための運動やお口の健康、栄養改善について学ぶ「ほほ笑い教室」が行われています。

神石高原町の取り組み

スマホアプリで健康づくり

神石高原町では、スマートフォンアプリを活用した健康づくり「健康マイレージ」生活習慣病の予防のため、20歳以上の町民の方400人を対象に、参加者を募集した。健康リスクの判定結果や改善ポイントが表示される。また、ウォーキングポイントやイベントポイントがあり、ミッションを達成するとポイントが獲得できる。健康ポイントを貯めると抽選で電子マネー(ペイポイントやアマゾンギフトカードなど)が当たります。

条例制定までの工程

令和6年5月	宮崎県高原町へ行政視察
令和6年8月	広島県庁(健康づくり推進課・医療介護政策課)へ行政視察
令和7年2月	議員調整会議
令和7年3月	定例会最終日、特別委員会設置に関する決議
令和7年6月	福岡県吉富町、大分県由布市、大分県九重町へ行政視察
令和7年6月	第1回健康長寿のまちづくり調査特別委員会
令和7年7月	第2回健康長寿のまちづくり調査特別委員会
令和7年8月	第3回健康長寿のまちづくり調査特別委員会
令和7年12月(予定)	別委員会
令和8年3月(予定)	パブリックコメント

人口の少ない多いに関係なく他自治体の取り組みを視察し、まだまだこの町でやるべきことを探求し実行に移さなければならぬ。今後も見聞をひろめ、町の発展に寄与していくため、精力的に行動をする

一般質問

質疑の一部を要約
してお伝えします



問 産廃施設周辺の 環境保全

やまもと よしひさ
山本 喜久 議員

答 管轄外については
指導出来ない

問 三和地区の産業廃棄物処理施設周辺の環境が以前から危惧されているが対応は。

答 町長 産廃処理法とダイオキシン類特別措置法は県の管轄で町に指導権限はない。臭気は悪臭防止法で町の管轄になり臭気測定を月2回行っている。

令和6年度には毎月臭気指数が基準超過で4月には県と合同で現地調査により指導票を交付した。

12月には改善勧告をした。業者には臭気に対して具体的な行動を促し環境保全に努める。

問 県と町の合同で調査出来ないか。

答 健康衛生課長 現状を踏まえ、県と協議をする。

志麻利の活用

問 小中学校の志麻利の活用は。

答 町長 学校では平和に関する学習は社会科の授業や総合的な学習の時間などで学んでいる。また、夏季休業中に、講師を招いてお話を聞く学校もある。志麻利の活用についても各校が実態を踏まえて検討していくものと考えている。本町のデジタルコミュニティ(情



浸食したアルミサッシ

報共有の場合)の形成・運営を行う目的で地域おこし協力隊員が7月1日から着任予定。この運営を通じて志麻利の活用拡大と共に井伏鱒二原作の「黒い雨」を通じて新たな交流人口の拡大に繋げたい。

学校の統廃合

問 少子化が進む現状で学校など統廃合の検討は。

答 町長 今後も児童生徒の減少傾向が予想される事から、これからの推移を見ながら様々な視点で検討する必要がある。保育施設に関しても近年の出産数の推移や今後の状況等を推測するなかで保育所のあり方や運営方法も検討する。

問 今後の水田利活用の 基本的考えは

かしわとこ よしお
柏床 由夫 議員

答 農家の所得向上に
つなげたい



問 過去5年間の主な水田作付け品目の状況と本年度の作付け計画の状況は。

答 町長 令和7年度は集計中だが、主食用水稲623haは5年前の92・5%、飼料稲44・8haは5年前の84・4%、飼料作物19haは5年前の81%となっている。

問 主食用水稲と飼料稲の令和3年度の生産額と令和6年度の推定生産額は

産額は。

答 産業課長 令和3年産の主食用水稲は6億8646万円、飼料稲は1697万円で、本年の概算生産額は、主食用水稲11億6501万円、飼料稲1516万円である。

問 本年度、飼料稲の作付け面積が減少しているが、連動して和牛の飼育頭数も減少しているのか。

答 産業課長 飼料稲が令和3年と比較すると84・4%となっている。子牛価格が最近では60万円代まで回復してきたが、これまで50万円を切るような時もあり、価格低迷が続いてきた経過で頭数が減少し飼料稲の作付けも減少の一因である。

問 今後の水田利活用の基本的考えは。

答 町長 令和9年度から生産性を重視し、作物ごとの支援を農林水

産省では見直しを検討している。

国の動向に注視しながら農家の所得向上につながるような水田利活用を進めていきたい。

問 担い手でない水稲耕作者は、地産地消助成など対象とならない。農家の高齢化で離農が予測される。町として独自の政策の考えは。

答 町長 担い手、法人も中山間地域の現状を考えると規模も限界がある。県・国と議論しながら新たな方策を検討する。



担い手による耕作がつづく水田

問 町長 高齢者、障がい者、子育て世代や生活困窮者など、それぞれ相談支援の仕組みがある。属性や世代を問わず、

答 「健康長寿のまちづくり調査特別委員会」での先進地視察では、健康寿命を延命するために、組織の体制が横断的連携を取れるか否かが一番重要であると感じた。重層的支援体制づくりをどのようにデザインしているか。

問 町の重層的支援体制は

おがわ よしひさ 議員
小川 善久



答 誰でも相談できる窓口を設置済み

相談支援を日ごろからおこなっている。

ふるさと納税

問 各種事業別に町が使える部分は寄附額の何%であるか。

答 町長 一般に、寄附額のおよそ50%が自由財源で、50%が運営経費。内30%が返礼品の代金、20%がサイト運営費用やシステム手数料や返礼品の送料である。

自治振興会、NPO法人、協働支援センター、学校法人などの団体や法人を指定して寄附をいただいた場合は、寄附額の88%を指定された団体へ交付し、各団体は、この中から寄附額の30%以内で返礼品の対応をされる。残り12%が、サイトやシステム手数料の運営経費である。団体や法人を指定された寄附金は、町の歳入にならない。令和5年度実績で寄附

金総額6億6200万円。大半はNPOへの寄附で、本町への寄附は、およそ2660万円であった。

問 ふるさと納税の額を多くするための工夫は。

答 未来創造課長 (株)ローカルという中間業者と契約し、サイトの作成、返礼品のページ作成・新規開拓を行い、効果的なタイピングでサイトへの掲載を行い、寄附額の増額を図る。



返礼品も組み合わせで開発計画をしている。

問 いずみ保育所への通所安全確保は

はし けんじ 議員
林 憲志



答 保護者と合意形成が不可欠

問 スクールバス運行基準の厳格化で、保護者の送迎により、就業時間を圧迫し事故の懸念もある。安心・安全を話し合う場を設け、スクールバス混乗運行なども検討すべき。

答 副町長 安心安全な送迎について話し合う場は重要だ。町は、保育所の保護者の皆さんと合意形成を図り、相互理解を深めることが不可欠だ。そのため、保護者へ

丁寧な説明を行っていきたい。

星居山展望台からの眺望改善を

問 星居山展望台は、多くの方から「眺望が悪い」というご意見・ご要望がある。展望台の屋根の撤去と、景観を阻害する樹木の適切な伐採の検討状況は。

答 町長 展望台周辺の国有林は、令和6年10月1日付で広島北部森林管理署との契約に基づき借受中。現在、同署および三和森林事務所と伐採について協議しており、具体的な計画・時期は未定。

答 産業課長 屋根撤去は指定管理者と協議したい。

スカウトジャンボリーの進捗

問 食料品や人材・物資調達について、極力



視界が遮られる星居山展望台からの景色

町内を利用して欲しい。対応は。

答 未来創造課長 本町で調達可能な食料や人員は商工会が担当し、観光協会には地域の観光資源・体験プログラムなど提供を依頼している。本町で調達できない分は、ジャンボリー実行委員会が調達する。

問 町道を拡幅するが費用対効果は。

答 町長 町道、郷仙養原牛の首線への約1億6400万円の投資は、大会の安全な運営に加え、仙養ヶ原地域の発展と住民の利便性向上を目的としている。



問 財政状況は

よこ お まさふみ
横尾 正文 議員

答 基金支出が膨大な額に

問 基金減少の危惧をよく聞か。 **答** 町長 近年、一般会計への基金繰入が膨大となり、令和7年度では16.7億円となっている。このまま基金を繰り入れれば、7年後には基金がなくなる。ただし決算において一定の積み立ては行っている。

問 チャレンジ基金融資は、令和7年度は1

件審査中だが、現在融資決定はない。この状況でも今年度は財団に860万円を助成するの

答 政策企画課長 財源は使い道を指定の上でいただいた寄附金である。

縮充社会

問 人口減少を前提とした具体的な施策とまちづくりはどうするのか。

答 町長 人口は前計画の目標、令和42年に4800人としていたものを第三次長期総合計画で3500人とした。

人口減少は、税収の減少や地方交付税の削減と直結し、あらゆる行政サービスに深刻な影響をもたらす。

課題共有をし、まちづくりについて議論を行う。技術革新で便利となり、人手不足をテクノロジーが補えると実感できる社

会が来ると考えている。

問 住民自治組織や各種団体の体制は。

答 町長 支所機能強化と協働支援センターの在り方を検討する。

ドローン

問 大型ドローンの事業が継続されている。今後の活動は。

答 町長 これまでは物資輸送、有害鳥獣対策や町内の小中学校生対象の次世代育成教育を行った。

町内のドローン担い手グループから2名を選抜し、災害時に孤立集落が発生した際に、物資の運搬を行うパイロットの育成を行う。



物資輸送の大型ドローン

問 いずみ保育所児のスクールバス混乗再開は

くぼ た りゅうせん
久保田 龍泉 議員

答 安全の保証がない限り再開は困難



問 新型コロナウイルス感染症拡大前までは小学生と同じスクールバスに混乗していたが、密を避ける目的で保育所児の混乗が中止された。コロナウイルス5類移行後、現在に至るまで再開されないのはなぜか。

答 町長 送迎用バスに置き去りにされ保育所児が亡くなるという事案が発生し、国から保育所児の送迎には安全管理を徹底するよう通知が出

された。

問 安全対策の内容は

答 町長 運転手以外で子どもの対応できる職員の同乗を求めている。必要な路線に朝・晩添乗員を配置する経費の確保は容易でない。

保育所だけの送迎バスを出すことは全町的に議論しなければならない。運行事業者も人員不足で同乗する人を確保することは困難な状況だ。事故なく運行できる保証がない以上再開は慎重な対応が必要だ。

訪問介護事業の休止

問 訪問介護事業所が令和7年3月末で休業届を出されたが、利用者への影響と、町の対応は。

答 町長 各団体からの協力を得てできる限りの対応をしている。町内外の訪問介護事業所の応援要請や、町内事業所

へのサテライト事業所設置依頼など対応を進める。法人からは職員不足が大きな課題で現時点の再開は難しいと回答があった。

問 令和6年訪問介護報酬引き下げがあり国に元に戻す働きかけをすべきでは。

答 福祉課長 県町村会や各機関を通じて国に要望している。

問 他の訪問介護事業所の経営状況と支援体制は。

答 福祉課長 訪問介護事業所の運営指導は県が行うことと定められており、町は経営状況を把握しているわけではない。

今後も訪問介護サービスの継続的な提供に向けて必要な支援や対応を検討していく。

一般質問

問 どう取り組む 防災 DX

よりさだ ひでゆき
寄定 秀幸 議員



答 県の情報システムと連携

問 新総合防災システム (SOBO-WEB)

との連携や利用拡大など、
防災DXへの取り組みは、

答 町長 新総合防災シ

ステムとの連携は、
効率的な情報伝達と迅速
な意思決定を可能にし、
災害対応能力の向上に寄
与するものだ。

本町独自の防災情報シ
ステムは導入していない。
広島県の防災情報システ
ムへの習熟度を高め、防
災情報を住民に提供し、

適切な避難行動が促進さ
れるよう努める。

健康長寿の まちづくり

問 健康長寿のまちづく

りへの取り組みは。

答 町長 健康寿命の延

伸は、大変重要な課
題であると認識している。
第9期高齢者プランの基
本理念である「高齢者一
人ひとりが輝き、緑豊か
な住み慣れた地域で、安
心して暮らせる神石高原
町」に基づき、地域全体
で支え合いながら、高齢
者の心身の健康づくりを
進めている。

問 介護支援ボランティ

ア制度導入は。

答 町長 当面は、地域

の支え合い活動の推
進や住民同士の助け合い
の場を充実させる取り組
みを大切にしていきたい。
健康に関する講演会な
どへの参加を、ポイント
として還元できる仕組み

づくりを検討する。

問 高齢者の肺炎予防へ の対策は。

町長 口腔ケアによ
る誤嚥性肺炎予防や、
肺炎球菌ワクチン接種へ
の支援を行っている。

問 高齢者RSウイルス 感染症対策として、 ワクチン接種への公費助 成を検討すべきでは。

町長 現時点では、
全額自己負担となっ
ている。国は定期接種化
に向け検討を進めている
ので、国の動向を注視し
ていく。

問 高齢者RSウイルス 感染症対策として、 ワクチン接種への公費助 成を検討すべきでは。

町長 現時点では、
全額自己負担となっ
ている。国は定期接種化
に向け検討を進めている
ので、国の動向を注視し
ていく。



元気な歌声が流れる、老人福祉
大会

問 豪雨・地震発生時の 行政対応は

かみはら しんいち
上原 伸一 議員



答 地域防災計画にて 迅速に対応する

問 災害発生時の行政の 対応と訓練状況は。

町長 地域防災計画
や職員初動をマニユ
アル化し、役場内で常に
閲覧可能な状態にしてい
る。

答 町長 油木高校魅力

化に向けた「8つの
支援」や「油木高校魅力
化+プロジェクト」、海
外交流支援事業、公設塾
や運動部活動強化のため
外部専門家によるトレー
ニング指導を行っている。
油木高校生が充実した学
校生活をおくることで受
験者増加に繋がることを
期待する。

問 避難場所の数と耐久 性、避難場所まで遠 い場合の対応は。

また、ピースウィンズ・
ジャパンの知見を基に防
災体制の強化に努める。

町長 28施設の指定
避難所と3施設の福
祉避難所を避難場所とし
ている。地震に関しては
新耐震基準（昭和56年6
月）以降に建築された建
物のみ開設する。

避難場所が遠い場合、
自主防災組織で、平時か
ら自分たちの地域に避難
する場所や施設がないか
など協議し、集落避難所
として避難訓練を行うよ
うに周知や支援をしてい
る。

避難場所が遠い場合、
自主防災組織で、平時か
ら自分たちの地域に避難
する場所や施設がないか
など協議し、集落避難所
として避難訓練を行うよ
うに周知や支援をしてい
る。

油木高校の存続は

町長 油木高校の存続と受
験者増加への取り組
みは。

町長 油木高校魅力
化に向けた「8つの
支援」や「油木高校魅力
化+プロジェクト」、海
外交流支援事業、公設塾
や運動部活動強化のため
外部専門家によるトレー
ニング指導を行っている。
油木高校生が充実した学
校生活をおくることで受
験者増加に繋がることを
期待する。

地域経済への 取り組み

問 農業への投資とブラ ンド強化策は。

町長 赤と黒のプロ
ジェクトとして振興
計画を策定している。ト
マトは令和6年度に過去
最高の売り上げとなった。
今後も6億〜10億円規模
となるよう期待する。

問 米のブランド化は。

産産課長 現在の生
産状況でブランド化
するには課題がある。生
産者の取り扱っている品
種と品質を統一する必要
がある。

受援訓練※
災害時にほかの団体か
ら人的・物的支援を受け
るための訓練



神石高原産トマト



問 相続登記の進捗状況は

ふじい りつこ 議員

答 法務局が窓口である

問 相続登記が義務化された。登記の進捗状況は。

答 町長 情報については広報誌で周知している。手続きについては法務局が窓口であるので、役場では登記の状況は把握していない。

問 町が事業を行う中で、登記されていないために滞った事例は。

答 建設課長 道路工事では、該当箇所に長期間相続登記がされず、所有者不明の土地があり、

着手が遅れた。

答 産業課長 農地の貸し借りや売買は、農地の相続登記ができてないと手続きに時間を要す。

答 住民課長 固定資産税納税通知書を発送する件数の3分の1は相続代表人または納税管理者に送付している。

また、地籍調査で現地立会の際、所有者へ連絡がつかない場合がある。

問 人生の終活で土地や建物を国庫または町に帰属させる事ができるか。

答 住民課長 土地を国庫に帰属するには条件がかなり厳しい上、費用の負担もある。町が土地や建物を管理または運用することはない。

高齢者の生活環境

問 買い物場所の減少や訪問介護事業所の休止など、高齢者の生活を支える環境の変化への対応は。

答 町長 地域福祉計画を基にした地域づく

りや、介護予防・生活支援の体制整備を推進し取り組んでいく。

ゴミの分別

問 可燃ごみの処理施設が変わり、品目によつては分別区分や出し方のポイントを変更することが可能か。

答 町長 町内で収集された可燃ごみは、中継施設であるクリーンセンターじんせきを経て、最終的に福山環境美化センターへ搬出される。現時点では、分別を変更したり、簡素化することは困難である。



分別したゴミを収集する作業員

補正予算

6月補正予算〔2億5,283万円〕

(四捨五入)

定額減税補足給付金

4775万円

定額減税で引ききれなかった人に、支援する

小畠交流会館の改修

4190万円

社会福祉協議会事務所の拡張・フリーWi-Fi導入

とよまつ紙ヒコーキ・タワーのエレベーター改修

217万円

落雷による基盤損傷、保険適用あり。

定額減税給付金

林 議員

プッシュ型給付はできないか。

住民課長

給付金は2種類。「不足額給付」はプッシュ型で支給。「不足額給付2」(その他)は申請が必要。町は対象者を抽出し、プッシュ型に近い形で通知する。

紙ヒコーキタワー・落雷によるエレベーター故障と保険対応

林 議員

紙ヒコーキタワーのエレベーターが落雷で故障。避雷針は機能しなかったのですか。

産業課長

避雷針はあったが、エレベーターの古い基盤が損傷したのが原因。

林 議員

エレベーター修理に約200万円。保険の加入は。

産業課長

保険の加入はしている。工事後に請求するため、金額は未定である。

町民の声を議会へ

神石高原町
女性会

神石高原町
青年会

商工会
青年部

議会では地域みなさんに寄り添うため、5月21～23日に役場本庁舎で女性会・青年会・商工会青年部との意見交換会を開催しました。

議会として、取りまとめ、重要課題につきましては、各常任委員会において協議を行い精査し、執行者に要望していきます。

神石高原町女性会

女性会 女性の各種団体への

参画が減っている。すぐに意識改革ができるものではないが、女性が参画しやすいような場にならないか。

議会 男女共同参画の時代であるため女性の活躍を求めていきたい。

女性会 インターネットで農業体験生を募集し受け入れた。休耕田の草刈りや鳥獣対策をしてもらった。とても喜ばれた。

体験生が短期間宿泊できる場所や小児科病院があればよい。
議会 移住定住の根幹となる取り組みである。大変参考となった。



神石高原町青年会

青年会 小児科が欲しい。

ファストドクターを利用したが、テレビ電話等で診てもらったためインフルエンザなど感染症の検査をしてもらえず、受診した意味が無いように感じた。

議会 要望はしているが非常に難しい。ファストドクターは安心を提供する取り組みと理解してほしい。

青年会 5年前からトマト研修生「新規就農者支援事業」

が中断している。再開して農業の活性化を図ってほしい。

議会 再開するよう要望する。



商工会青年部

商工会青年部 メンテナンス的な公共事業を増やしてほしい。

議会 地域で点検されて気がついたところはその都度報告してほしい。

商工会青年部 この町で大事なのは関係人口を増やす事だ

と思っている。魅力発信してターンを増やす事が人口増に繋がる。空き家の改修補助100万円では少ない。

議員 関係人口を増やすため、空き家も含めた家の利活用などについて先進地を参考にしたい。



こんなことが決まったよ!!

主なもの

条例

ビレッジハウス仁吾川設置及び管理条例の一部を改正する条例

要旨：ビレッジハウス仁吾川施設使用料の改定に伴う管理条例の一部を改訂する条例



森林公園設置及び管理条例の一部を改正する条例

要旨：星居山森林公園施設使用料の改定に伴う管理条例の一部を改訂する条例



財産の無償貸付

種別：旧神石高原中学校高原寮

相手方：(一社) 福山シティクラブ

期間：令和7年7月1日から令和12年3月31日まで



財産の取得

物品名：学習用コンピュータ460台

契約金額：4016万円

取得方法：随意契約（県の共同調達）

納期：令和7年8月31日完了



工事請負契約の締結

工事名：町道郷仙養原牛の首線改良工事

請負者：村上建設株式会社

金額：8855万円

工期：至 令和8年3月31日



指定管理者の指定

場所：神石高原町油木スポーツ広場

指定管理者：油木スポーツ広場DREAMパートナーズ

「(一社) 福山シティクラブ」と「油木協働支援センター」との連携管理

期間：令和7年7月1日から令和8年3月31日まで



第3セクター経営状況

単位：万円（四捨五入）

会社名	R6売上	R5売上	昨年比	税引前利益	運営補助等
(株)神石高原農業公社	6497	6209	104.6%	▲220	500
(株)帝釈峡スコラ	7923	8408	74.2%	▲517	938
(有)さんわ182ステーション	6億5665	6億657	108.3%	138	1102
合計	8億0085	7億5274	106.40%	▲599	2540

神石高原地域創造チャレンジ基金

2017年9月設立。令和7年度で9期目を迎える。申し込みは上半期1件、下半期2件であったが、年度中の契約は0件であった。

運営費はふるさと納税約600万円、企業版ふるさと納税800万円で4年連続寄附金で賄えた。

令和7年度から上限を2000万円、償還期間を最長5年とすることで、これまでと同様に多くの支援を継続する

議員賛否表（賛否の別れた議案のみ）

○=賛成 ×=反対 欠=欠席

議案名	寄定秀幸	久保田龍泉	横尾正文	林憲志	小川善久	柏床由夫	山本喜久	藤井潤子	上原新一	橋本議長
議案第79号 財産の無償貸付（旧切田堆肥センター）	○	○	○	○	×	○	○	○	○	—

議長は採決に加わらない

まちの声

議会クイズの回答と共に寄せられた
要望・意見・感想など主なもの

● 年を重ねました。何をするにも「どっこいしょ」「よいしょ」の掛け声が必要になりました。できるだけ出来ることをしようと思います。議員さんも大変でしょうがリニューアルした「リ・フリエイト・ベース」に力を入れて地区のための店になる様応援してください！（油木地区）

● この1年間で人口238人・788世帯が減少しており、町および町議としても、もつと真剣に対策を行動に移さないと机上の空論に終わり、来年のこの時期では7500人を割る恐れがあります。町民の納得できる行動をお願いします。（上豊松地区）

● 町内の空き家が大変多く、空き家バンクをあらゆる方法で周知して、町内外への益々の定住促進に力を注いで欲しい。3月には郵便局の隣に転入、定住家族が入られ、組入り挨拶をされました。小学校の皆さんもおられ班内の皆さんも心強い思いで祝福されました。神石高原町HPは、検索しに

くいので広島県が実践取り入れたAIを活用した検索システムの導入をされたい。よって神石高原町も幅広い周知などを創意工夫、徹底して欲しい。（上豊松地区）

● 久しぶりに議会クイズに応募しました。頭の体操になります。（近田地区）

● 高齢者が色々要望しますが、どうぞよろしくお願い致します。（高光地区）

● 子育て・教育支援、良い事だと思っています。私は今年75歳になり、姉は88歳の米寿を迎えます。高齢者支援にも積極的に取り組んでほしいと思います。子どもたちはこれから通る道。年寄りは今まで通ってきた道。（小畠地区）

● 「みんなの町議会」を隅々まで拝見しました。物価高騰：年金受給だけでは、今後、生活が困窮することを実感しています。新人の議員さん！町に新しい風を期待します。（高光地区）

第65回 議会クイズ GIKAI QUIZ

空欄に適切な言葉を
いれてください

- ① よしとみ〇〇予防カード
- ② 小畠〇〇会館の改修
- ③ 油木スポーツ広場〇〇〇〇〇パートナーズ

●応募方法

ハガキに「答え・住所・氏名（ふりがな）・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。（メールFAX可）

正解者多数の場合は厳正な抽選により、1人の方に5000円分のこうげん通貨券をお送りいたします。

応募は、1人・1通に限らせていただきます。

●あて先 〒720-1522 神石高原町小畠1701番地
神石高原町議会事務局「議会クイズ係宛」

●FAX 0847-85-4201

●メールアドレス jk-gikai@town.jinsekikogen.hiroshima.jp

●締め切り ・はがき 令和7年9月5日（金）消印有効
・メール 令和7年9月5日（金）17時締め

●個人情報の取り扱いについて

ご記入いただきました個人情報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。



クイズの答え

- ① 令和7年度一般会計当初予算①①⑨億5600万円
- ② ベビー用品（レイン）の事業
- ③ 健康（長寿）のまちづくり調査事業特別委員会

高光地区 須田 栄子さん

おめでとーいございます！

第64回
議会クイズ当選者

議会クイズにたくさん
のご応募ありがとうございました。皆様から
いただいた声を受けと
め、前向きに取り組ん
でいきます。

家族で移住 豊松でトマトづくりに挑戦中！

大阪出身の栃下誠二（とちしたせいじ）さん（48歳、表紙右）は、会社員として全国をまわる転勤族であったが、コロナ禍を機に「食べ物を自分で作りたい」との思いから、妻の実家が福山だったということもあり、自然豊かな神石高原町の豊松地区で空き家バンクを探された。

「地域の皆さんが親身になって協力して頂いていることに感謝している。」と話されている。

小学6年・4年のお子さんにも友達ができ、地域に馴染み、「将来は一緒にトマトを育てたい」と話されており、出来るだけ早い農業自立を目指し頑張られている。

同じ頃、神石特定事業組合員である「ファームはりまや」橋本さん（表紙、左）はトマトづくりを手伝ってもらえる人を探されていた。

事業組合のマッチング



編集後記

6月28日に、やまなみ文化ホールで開催された「平和のつどい〜未来につなぐ心と絆〜」横田拓也さんの講演を拝聴。拉致問題の真実と、永年に渡る家族の葛藤。「忘れさせない力」の大切さに胸を打たれました。「声を上げ続ける事」の決意を新たに。（憲）



拉致被害者の早期帰国を

議会広報常任委員会

委員長	小川 善久
副委員長	柏床 由夫
委員	林 憲志
委員	藤井 潤子
委員	上原 伸一

発行責任者 議長 橋本輝久
住所／広島県神石郡神石高原町小畠一七〇一

TEL 0847-18913340
FAX 0847-18514201